

地域おこし協力隊活動報告



① ② 多様な事故を想定して訓練

雪の季節は危険がいっぱい。命を守る行動を。占冠消防では、いかなる現場においても安全、確実、迅速に救助活動を行うため、日々訓練を重ね、知識・技術の向上に努めています。写真①は、梯子をクレーンとして使用し、崖下など地上より低い場所にいる要救助者を救出する救助訓練、写真②は、ゾンデ棒（雪などに差し込み埋没した人を探す棒）を使用した埋没者検索救助訓練の様子です。

屋根の雪下ろし等の作業をするときは、落雪による埋没など万一のときに備え、補助者を置くなど複数で行いましょう。



コロナウイルス感染症予防に

1月29日（金）、株式会社星野リゾート・トマムクラブメッド北海道トマム（ブレンダン・バンゼル総支配人）様から村に対し、「新型コロナウイルス感染症の予防対策に活用してほしい」と、N95 マスク7000枚の御寄附を賜りました。

御寄附いただきましたマスクにつきましては、村診療所はもとより、新型コロナウイルス感染症予防対策物資として、有効適切に活用させていただきます。

御寄附を賜り、誠にありがとうございました。



小さな灯火が照らす夜 ラッチャコナイト2021

2月13日（土）、NPO法人占冠・村づくり観光協会主催の『ラッチャコナイト2021 灯〜ともしび〜』が、道の駅自然体感しむかっぶにて開催されました。ラッチャコはアイヌの言葉で『小さな灯火』という意味。アイスキャンドルによるあたたかな灯火が、会場を包み込みました。

併せて、冬のしむかっぶフォトコンテスト及びアイスキャンドルコンテストが開催され、村の素敵な冬の写真や、個性あふれるアイスキャンドルが審査されました。たくさんのご応募ありがとうございました。



地域おこし協力隊 川口 晃平 所属：福祉子育て支援課 子育て支援室

握、地域における担い手調査、地域での困り事などの相談といった活動もしています。

高齢化や人口減少が加速する現代においては、労働力不足、地域の担い手不足等が都市部では問題となっており、占冠村においても同様の事が考えられます。

そのために占冠村で暮らす皆様、これからも住み慣れた占冠村でより良い暮らしを送るために必要なことを占冠村の皆様と共に考えていきたいと考えています。

地域おこし協力隊の任期はあと1年程ですが、コロナ禍における実施可能なことの継続と新たな活動実施に向けての対策を検討していきます。コロナウイルス感染症の終息により、安心した生活を取り戻せること、様々な地域活動が不安なく再開できることを願っています。

2019年4月より地域おこし協力隊として着任し、もうすぐ2年目を終えようとしています。昨年からのコロナウイルス感染症発症から1年程経過し、協力隊としての活動にも影響を及ぼす変化がありました。活動内容は主として占冠村地域包括支援センターで高齢者支援業務に携わっていますが、各地区で月1回開催している手しごとカフェ（中央区・占冠地区・双珠別地区）・いきいきクラブ（トマム地区）では、参加者の皆様にコロナウイルス感染症防止対策へのご協力をいただきながら実施することとなり、ご不便をおかけしております。

また、今年度からは生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）として各地域における社会資源の把



昨年12月より着任し、村の特産品であるメープルシロップ事業の製造補助や在庫管理等を主に担当させていただいています。

日本でも数少ないカエデの群生林を有する占冠村ですが、地形等の面で北米のようなシステム化されたメープルシロップ生産体制の構築に向けて課題も多いと感じています。カナダ又はアメリカの資料よりこの地に適した採取の方法を模索していきたいと考えています。

また、単にカエデの木から樹液を採取し、シロップにしていこうというだけでなく、地域が持つ資源を今後どのように活用していけるかという部分で林業を含めた学びがまだまだ必要と思っています。



地域おこし協力隊 田中 慧 所属：農林課 林業振興室

そうした中で、昨年末より村役場の林業振興室、また占冠村木質バイオマス生産組合での仕事を通して、少しずつ林業の世界にも触れられる機会が出来た事は、これからの活動にとって非常に有益だったと感じています。

初めてのシーズンを迎えるにあたり、メープルシロップ事業の抱える課題と可能性をしっかりと見極め、今後村内の方々に愛され、全国の皆さんにも「国産のメープルシロップなら占冠村」と思ってもらえるように試行錯誤しながら進んでいきたいと考えております。